

学校の在り方地区検討委員会（西北地区）

【第4回】

日時：令和8年5月20日（水）

9：30～12：00

場所：プラザマリュウ五所川原

1階 アリシア

<出席者>

平田委員、平沢委員、原委員、山谷委員、阿彦委員、高橋委員、竹浪委員
成田委員、宮崎委員、川嶋委員、中島谷委員、山口委員、大瀬委員（進行役）

代理

今氏（倉光委員代理）、三上氏（濱舘委員代理）、田中氏（鈴木委員代理）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

参考：学校配置シミュレーション

ア：五所川原工科高校普通科を2学級減で対応した場合

イ：五所川原高校と五所川原工科高校普通科を1学級ずつ減で対応した場合

ウ：五所川原農林高校と五所川原工科高校を統合した場合

3 意見交換

（1）学校の在り方に関する主な意見

- 商業科及び家庭科で少人数学級編制を実施する理由は何か。全ての学科で少人数学級編制を実施するための第一段階と考えているのか。
→（事務局）きめ細かな指導を充実させるため、普通科については単位制の導入を、職業学科については少人数学級編制の実施を検討している。少人数学級編制については、既に実施している農業科・水産科・工業科に加え、商業科及び家庭科への実施を検討することとした。
- 単に学級数を削減するだけでは地域の衰退につながるため、普通科でも少人数学級編制を実施すべきである。
- 後期実施計画期間の中学校卒業予定者数の減少に対応するためには、県独自の教員の加配を検討した上で、少人数学級編制を実施すべきと考える。
- 少人数学級編制は学習効果が高く、現場でも評価されているため、実施できるように努めてほしい。

進行役から、ほかに修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

(2) 全日制課程の学校規模・配置について

① 学校配置シミュレーション

◇ ア・イの案に関する意見

- アの案について、普通科の選択肢が五所川原高校のみとなり、私立高校や他地区への流出を助長する懸念がある。

さらに、高校授業料の無償化により一定の負担軽減が図られるとしても、私立高校に進学した場合の入学料や諸費等の負担額は公立高校に進学した場合より高額になる傾向があるため、普通科の選択肢を積極的に減らすことは適当でない。

- アの案について、普通科の選択肢が失われる懸念がある。
保護者は生徒の通学環境を重視するため、通学面での配慮がなければ、スクールバスのある私立高校への流出は止められないのではないかと懸念がある。

- こどもや保護者のニーズを踏まえると、普通科の選択肢を確保することが望ましい。

将来の職業選択につながる様々な学科があれば高校の魅力化につながる。

- 単位制の導入により科目選択の幅が広がり、多様な進路志望に応じたカリキュラム編成が可能となるほか、教員数を確保しやすくなる利点もあるため、学級減による課題を緩和できるのではないかと懸念がある。

- 20年後の未来を見据えると、普通科の選択肢を確保するよりも、将来の職業選択につながる教育を優先すべきと考える。

さらに五所川原高校が4学級となり、教員数が減少することで、難関大学への進学等への対応が難しくなり、五所川原高校の魅力低下につながるのと同時に、私立高校や他地区への流出を助長する懸念がある。

◇ ウの案に関する意見

- ウの案については、農業科と工業科の専門性を保てなくなるため反対である。

仮に、今後、五所川原農林高校と五所川原工科高校を統合する場合は、それぞれの専門性を担保するために農学部、工学部を有する国公立の大学を設置し、統合校をその附属高校としてほしい。さらに、地区の持続可能性、発展性を考慮すると、他地区、他県から人を集めることが必須であり、その国公立大学に海外留学同等の教育環境を有するグローバル関連学部も併せて設置するべきである。

○ 五所川原農林高校と五所川原工科高校を統合する場合、この地区の地域産業を踏まえ、農業と機械について学べる農業機械科のような学科を設置することにより、地元への就職につながる可能性もある。

一方で、両校を統合した場合、どちらの校地を活用すべきか課題がある。

○ 五所川原農林高校と五所川原工科高校の統合による課題について伺いたい。

→（五所川原工科高校）それぞれが高い専門性を有しているため、統合により教育課程が複雑化するとともに、それに伴う教員の負担増が懸念される。また、農場や工業設備の設置場所等についても綿密な計画が必要となる。

② シミュレーション以外の学校規模・配置等に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

（３）定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

（４）その他の意見

進行役から、修正等がないか委員に意見を求めたところ、委員から意見はなく、承認された。

本日の意見交換を踏まえ報告書を整理し、委員へ書面で確認した後、最終的な確認は進行役に一任することで委員から承認された。

4 閉会